

下葉山橋

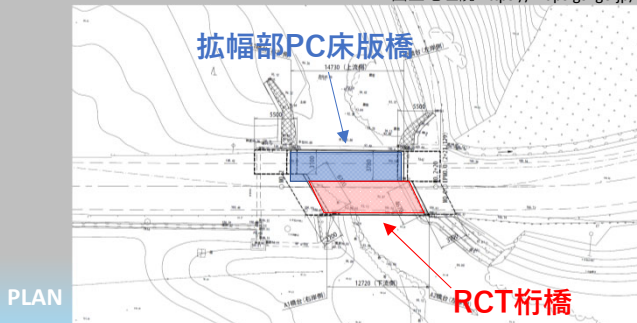
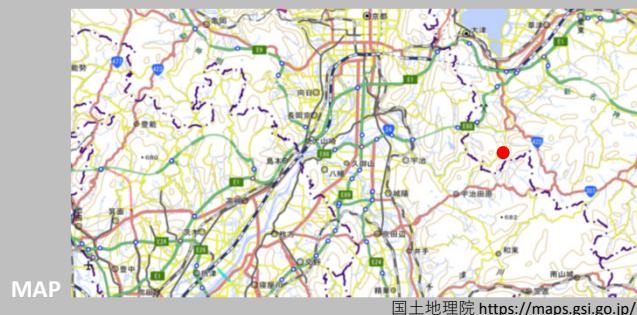
SHIMOHAYAMA BRIDGE

約90年供用したRCT桁橋

- 路線名：一般県道宇治田原大石東線
- 所在地：滋賀県大津市
- 橋梁形式：単径間RCT桁橋（PC床版橋で拡幅）
- 橋長：12.80m，有効幅員：7.60m（拡幅後）
- 供用期間：1930年～2019年
- 提供：滋賀県大津土木事務所，協力：(株)三東工業社

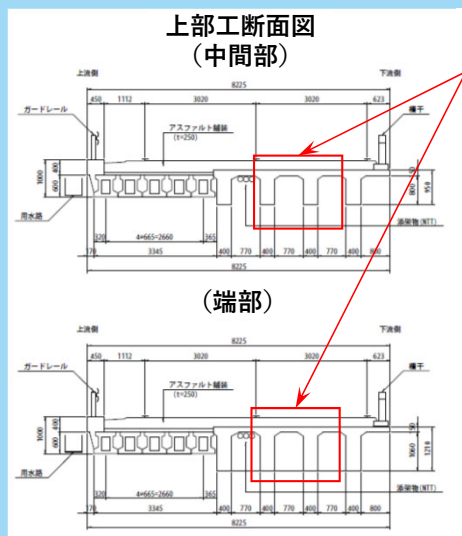
橋の沿革

下葉山橋は、滋賀県南部の山間部に位置する一般県道の道路橋である。当初1車線のRCT桁の斜橋として架けられたが、交通量の増加に伴い、1970年代頃にPC床版橋により拡幅された（2010年調査時点5,194台／24時間）。その後、RC桁の損傷拡大およびスマートIC開設準備のため、2019年に撤去された。



劣化状況

4主桁のうち両外側の桁は、水がかりを受け、鉄筋腐食、浮き・剥離が多くみられた。特にPCによる拡幅部は、RC桁と挙動が異なるため、絶えず双方の桁の継ぎ目にずれが生じ、路面から凍結防止剤を含む漏水が発生していたと推察される（路面にも補修跡あり）。継ぎ目側のRC桁の主筋は激しく腐食して断面欠損を生じていたが、内側の2本の主桁には目立った損傷はなく、健全であった。



下葉山橋

SHIMOHAYAMA BRIDGE

約90年供用したRCT桁橋

- 路線名：一般県道宇治田原大石東線
- 所在地：滋賀県大津市
- 橋梁形式：単径間RCT桁橋（PC床版橋で拡幅）
- 橋長：12.80m ，有効幅員：7.60m（拡幅後）
- 供用期間：1930年～2019年
- 提供：滋賀県大津土木事務所，協力：(株)三東工業社

撤去

本路線に並行して建設中の新名神高速道路において（仮称）新名神大津スマートICが整備されることとなり、その取付道路が本橋右岸側に接続し交通量の増大が予想されるため、本橋は架け替えられることとなった。撤去工事は2019年12月に行われた。



教材としての活用

滋賀県大津土木事務所から、撤去したRC桁のうち損傷の少ない内側の桁と、外側の桁の腐食鉄筋が教材として提供され、全国4高専（福島、長岡、福井、香川）に運搬された。内側の桁は約90年間供用されたRC桁としては非常に健全であり、逆にいえば、損傷した外側の桁と比較すると、RC構造物の長寿命化対策として水がかりのコントロールがいかに大切かを物語る教材となっている。

教材としての活用例：

- ・中性化深さ測定
- ・鉄筋探査
- ・コンクリート強度推定
- ・腐食度調査
- ・表層品質評価
- ・版厚推定
- ・空洞調査

